

高台だより

H26年2月号
No.345
発行責任者 栗原千秋
会員328世帯 全370世帯
ホームページは taka-dai.info
自治会設立 昭和61年4月
手をつなごう 高台自治会で
バックは雪の結晶

「自治会サポーター制度」を創設 登録をお願いします

「自治会サポーター」とは、役員であるブロック委員や常任委員とは別に、自治会を支えるための皆さんのこと。新制度を立ち上げました。

趣意

高台では現役員や委員の高齢化が進み、また企業の定年延長で役員にならぬ人が減っています。一方「災害時の助言」「高齢者の見守り」「宅地開発対応」と、自治会への責務は年々高増しています。そこで現役員を支え、自治会活動をサポートする制度を作りました。

サポーターの範囲

各自ができる分野で、できる時間でお手伝いいただければ結構です。定期的に集合に出るというよりは、自主的に自治会からの呼びかけに、都合のいい時に協力いただければと思います。

登録いただきたい皆さんへ

登録いただきたい皆さんへ
①これまで自治会活動をお手伝いいただいた方
②

部会等報告

美化衛生

「家庭で出たゴミやジュースの「アルミ缶」を回収し、業者引き取ってもらう」、代金を自治会の収入としています。塵も積もれば、昨年年間4万9千円になりました。アルミ缶類は、月2回の水曜日の分別収集日に出すのではなく、都度高台集会所横のポリバケツに漬けて入れていただくか、第3水曜日の故紙回収日に「アルミ缶」の故紙回収ボックスに入れてお出しいただくなどしていただければと思います。



- ③役員にはなれないが、サポートを希望する方
- ④自分の特技を自治会のために役立てたい方

27年間続いてきた高台自治会の火を絶やさないためにも是非「協力をお願いします」の協力の心ある皆さんは、まず登録をお願いします(054-6740-40 栗原まゆみ)。



集会所

高齢化が進む高台自治会において、協力いただいている方の負担を軽くするため、「アウトソーシング」(外部委託)や「機械化」(パソコンやネットの活用)、また「設備投資」などの施策を考えています。

その設備投資の一環として、従来イベントで使う重くて組み立て難いテントを、少人数でも扱えるものに替えたいと思います。また、さらさら会館の都度設定していた音響装置を常設の新しいものに変わっていきます。

環境

長岡周辺の山野で、有害鳥獣捕獲のための猟友会の発砲があります。地域は天王山・大原野・野山周辺で、期間は2月27日から3月26日までです。当該地には告知看板が設置されていますので、入山時に確認いただき十分ご注意ください。

お知らせ

●2月9日高台歴史を築いた会第85回例会がありました。今回は高台の1丁目にお住まいで大阪大学名誉教授の都出比呂志先生に「古代国家はいつ成立したか」をテーマに2時間にお話をいただきました。「古代国家が成立した奈良時代以前の古墳時代」、氏族社会から国家へをつなぐ段階としての初期国家があった」と、考古学の成果などを使つての新説をお話いただきました。



歴史の会例会

春のバザー

春恒例の「高台さくら祭り」は、4月6日(日)桜花爛漫のもとで予定されています。さくら祭りに併催される「バザー」と「フリーマーケット」(フリマ)について、計画が進んでいます。バザー用として「使っていない」「進物でもらった」などの日用品・食料品・陶器・衣料などがありましたら準備をお願いします。また趣味収集品・手作り品などを販売いただくフリマ(売上の1割を自治会に寄付いただきます)についても、ご希望の方は出品準備をお願いします。詳細は、3月の高台だよりと一緒に配付するチラシをご覧ください。

「ふれあいサロン」開催 今回は26日(水)参加自由



第1回ふれあいサロン

「高台安心見守り隊」は、高台の私たち皆んなが互助の精神で、特に高齢者の皆さんを助け合つために設立されました。その第一回「ふれあいサロン」が、1月31日(金)13時よりさくら会館で開催されました。

今回は27名の参加があり、毒舌漫談綾小路きみまろの「きみまろライブ」と、2012年の「コンテスト」優勝した新進の「バイキタ」のピアノを弾き、歓談や喫茶で親交を深めました。次回は2月26日(水)2時から、山田洋次監督「渥美清主演」の「男はつらいよ」などを楽しみたいと思います。



約も不要です。お気軽にお越しください。みなで映画を見、歓談したいと思つています。なお「見守り隊員」の第一回集合が、2月22日(土)7時からさくら会館であります。

会員動向

- 入居入会 2日 原田28・24 白土文久さん
- 退去退会 1日 0日 4・2・4 秋元文利さん

オトナリセンの釣り

4丁目 片山剛さん



38年前5人家族の末っ子として高台4丁目「引越してきました」。当時小学2年生だった私は、自宅前の側溝で沢蟹を見つけた。第5小学校からの帰り道でザリガニを掴み、カフトムシやクワガタを捕え、小泉川でドンコを掬っていました。さらに興奮したのは学校行事にウサギ狩りがあったこと。極めつけは庭の鉄棒で猿が大回転をしているのを見ました。とにかく毎日大興奮で遊び回っていたのですが、近所の池に行くこと必す。下の山田忠充君が先に来て釣りをしています。山田君は、高台でも会のサッカーや野球に参加するわけでもなく、いつも「何ゆってんねん(天然) 記念物」と不思議な自作の歌を歌いながら自転車で公園の周りを回っていました。ある日、彼から驚愕するニュースを聞きました。「かっか、片山君、金ヶ原の上の池で巨大な金魚が釣れる」。少年探偵よろしく調査に向かい、さなき粉をつけたワゴンで、デカイ赤金や琉金、果ては気持ち悪いくらい巨大化したアメキンまで釣れて、大騒ぎしたことを覚えています。

事の真相は「つらら池」に地蔵盆が残った金魚が放流され、数年経って大きく育ったものだったのでした。それから十数年を経て、お互いに20代で「高台」で妻を迎え、ほごな家族ができました。我が子供たちがあの頃の自分たちのように一緒に遊んでいる姿を見て、タイムスリップをしたような何とも不思議な気持ちになります。

実は、40代になった今も山田氏と毎週琵琶湖で魚釣りをしている、遊び方は何も変わっていません。我が少年時代を過ごした「高台」と我が子供が過ごす「高台」がちっとも変わっていないのは役員や高台住民の皆様のおかげだと今更ながら感謝しています。今後も「片山田」コンビをどうぞよろしくお願ひいたします。